



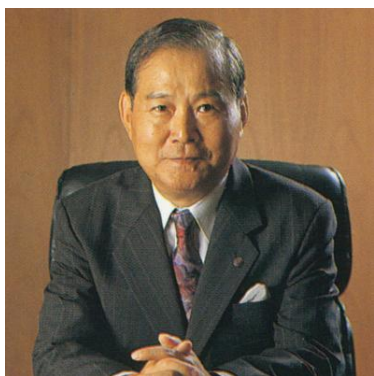
決算説明会

2025年5月15日

株式会社カイノス
代表取締役社長
長津 行宏

50th Anniversary

50年の革新、未来の医療を共に築く



杉山 茂

(1975年 - 1996年)



平川 正徳

(1996年 - 2000年)



中村 利通

(2000年 - 2011年)



上地 史朗

(2011年 - 2022年)

50th Anniversary

50年の革新、未来の医療を共に築く



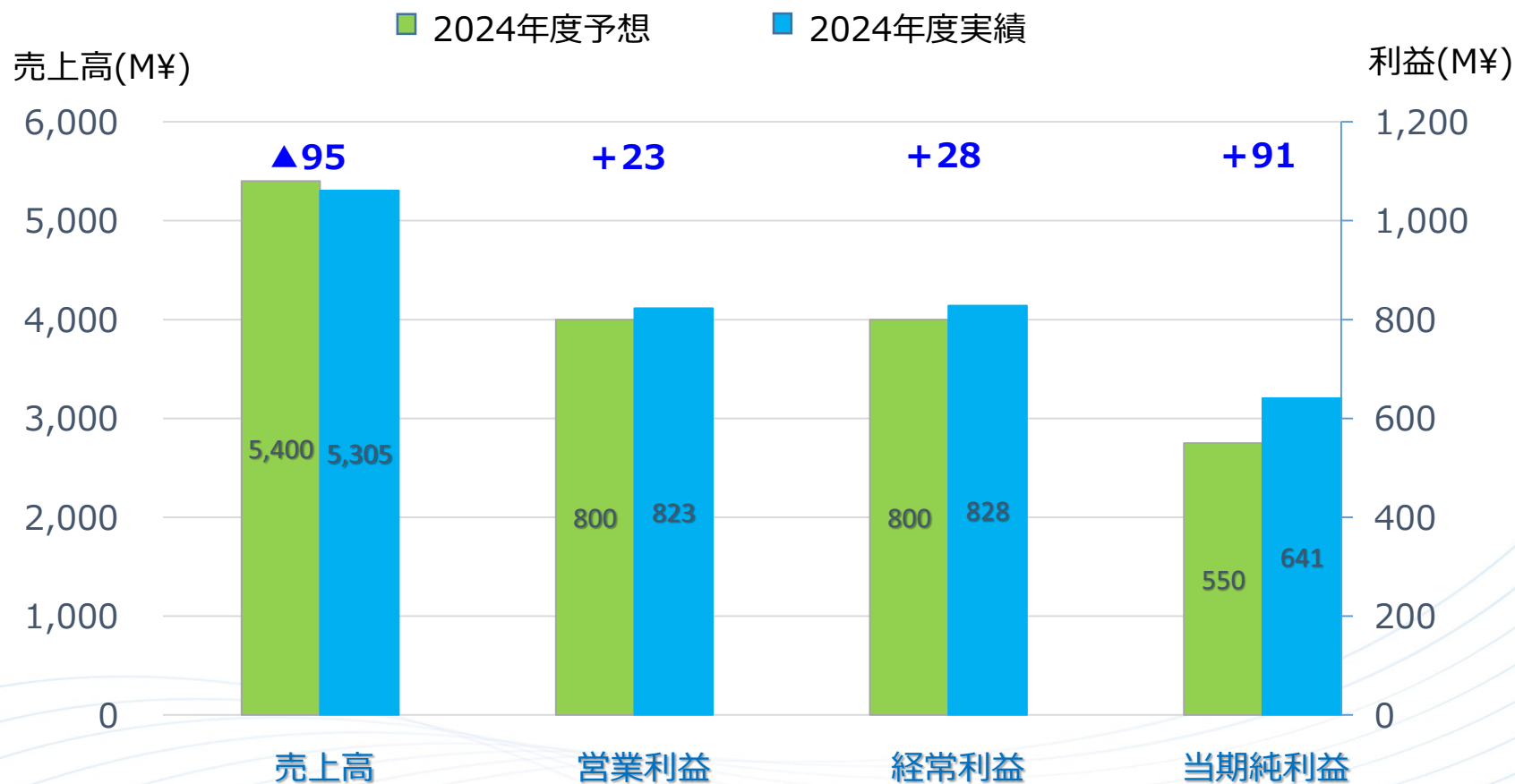
長津 行宏

(2022年 - 現在)

2024年度 決算

2024年度 決算

2024年度開示計画に対し、各利益項目は達成するも 売上高は未達



2024年度 決算 (対予想)

(単位：百万円)

		2024年度 予想	2024年度 実績	増減額	増減率 (%)
売上高	製品	4,670 (86.5%)	4,551 (85.8%)	▲119	▲2.5
	商品	730 (13.5%)	754 (14.2%)	+24	+3.3
	計	5,400 (100%)	5,305 (100%)	▲95	▲1.8
営業利益		800	823	+23	+2.9
経常利益		800	828	+28	+3.5
当期純利益		550	641	+91	+16.6

2024年度 決算 (対前期)

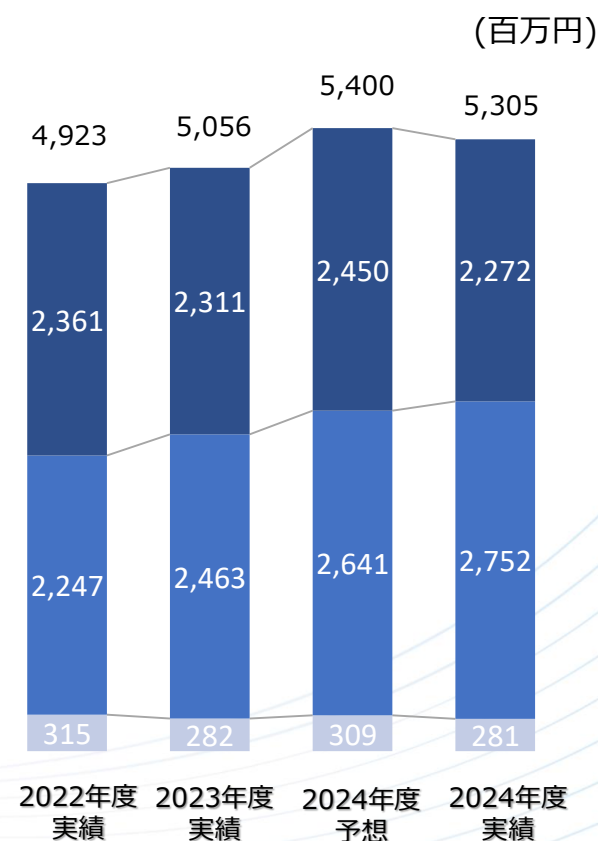
(単位：百万円)

		2023年度 実績	2024年度 実績	増減額	増減率 (%)
売上高	製品	4,286 (84.8%)	4,551 (85.8%)	265	6.2
	商品	770(15.2%)	754 (14.2%)	▲16	▲2.1
	計	5,056 (100%)	5,305 (100%)	249	4.9
営業利益		865	823	▲42	▲4.8
経常利益		928	828	▲100	▲10.8
当期純利益		637	641	4	0.5
当期純利益率		12.6%	12.1%	—	—

売上高(全体)

- ・ 対予想は1億円減、対前年は2.5億円増
生化学分野が対予想・対前年共に未達であったが、免疫分野が伸長

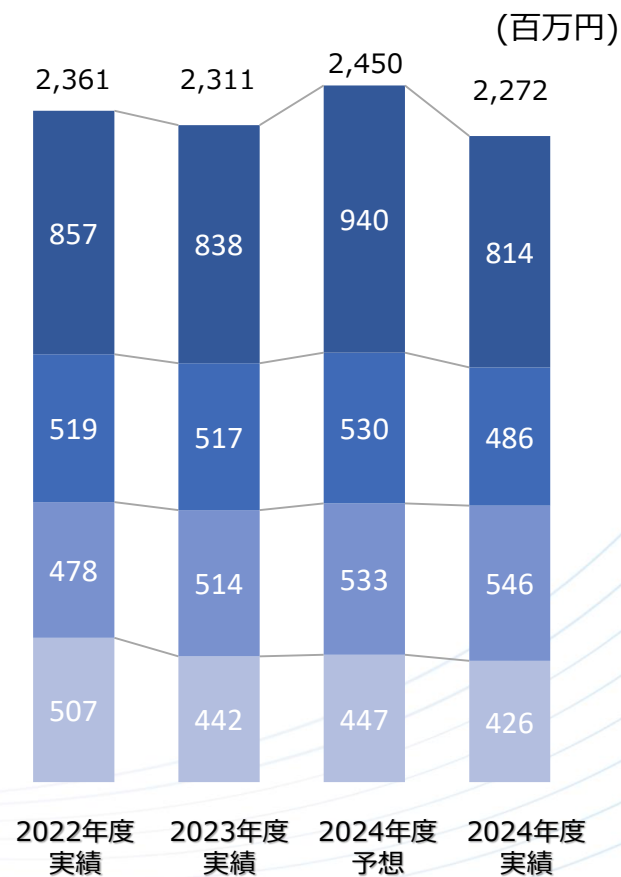
	2022年度 実績	2023年度 実績	2024年度 予想	2024年度 実績	増減額 (対予想)
生化学	2,361	2,311	2,450	2,272	▲178
免 疫	2,247	2,463	2,641	2,752	111
その他	315	282	309	281	▲28
合 計	4,923	5,056	5,400	5,305	▲95



売上高(生化学)

- ・ 対予想・対前年ともに未達
マルチキャリブレーターを活用しながら拡販を図ったが、次年度への持ち越し案件発生等で目標を達成できず

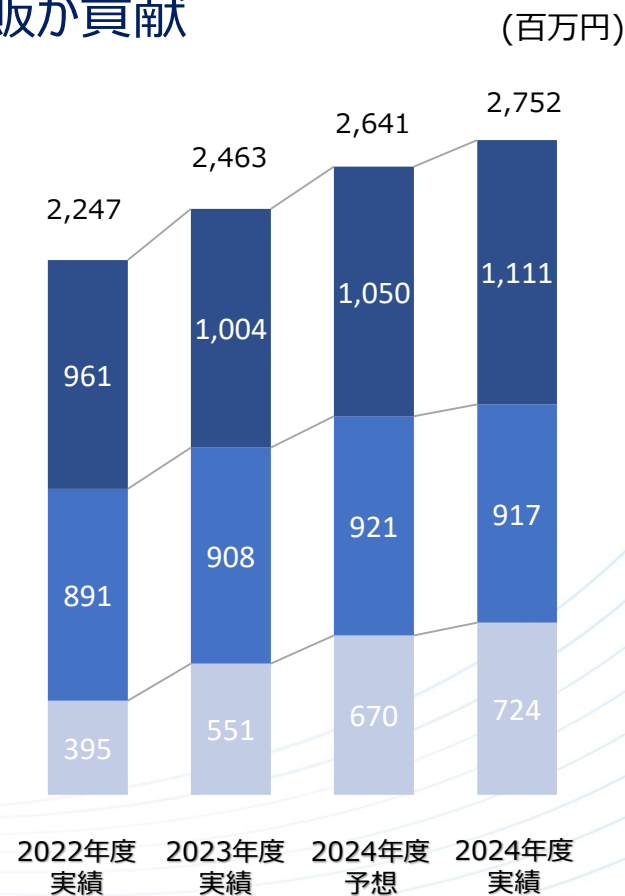
	2022年度 実績	2023年度 実績	2024年度 予想	2024年度 実績	増減額 (対予想)
腎機能	857	838	940	814	▲126
肝機能	519	517	530	486	▲44
糖尿病	478	514	533	546	13
その他	507	442	447	426	▲21
合 計	2,361	2,311	2,450	2,272	▲178



売上高(免疫)

- ・ 輸血 : 対予想・対前年ともに達成
大学や基幹施設での機器の新規設置需要の取り込みに成功
- ・ 腫瘍マーカー / その他 : 対前年は達成、PCT拡販が貢献

	2022年度 実績	2023年度 実績	2024年度 予想	2024年度 実績	増減額 (対予想)
輸血 (除機器)	961	1,004	1,050	1,111	61
腫瘍 マーカー	891	908	921	917	▲4
その他	395	551	670	724	54
合 計	2,247	2,463	2,641	2,752	111



2025年度の目標と取り組み

- 2024年度の結果を踏まえて -

1. 営業・学術活動
2. 新製品開発
3. 効率化・コスト削減
4. 法令等対応

営業・学術活動

営業・学術活動

1) 生化学試薬の拡販

- ・クレアチニンのトップシェアの奪取 シェア：16.7%(24年度) ⇒ 18.0%
- ・マルチ9項目のシェアアップ 目標売上：11.7億円(24年度) ⇒ 12.5億円

【活動】

- * リキッドキャリブレーターとマルチ9の選択提案
- * 機器メーカーとの協業提案、他メーカーとの協調及び導出拡大
- * 技術員の増員と底上げによる、体制と対応の強化

2) プロカルシトニンの拡販

- ・垂直拡販でシェア5%へ 目標売上：1億円(24年度) ⇒ 売上2億円

【活動】

- * 大学病院との共同研究及び学会発表、文献投稿の継続推進
- * 専用機からの切替、マルチ9項目採用への相乗効果の推進
- * 機器メーカーとの協調強化

営業・学術活動

3) 輸血分野での拡販

- ・新規と更新需要の獲得でシェア20% **目標：17%(24年度) ⇒ 20%**

【活動】

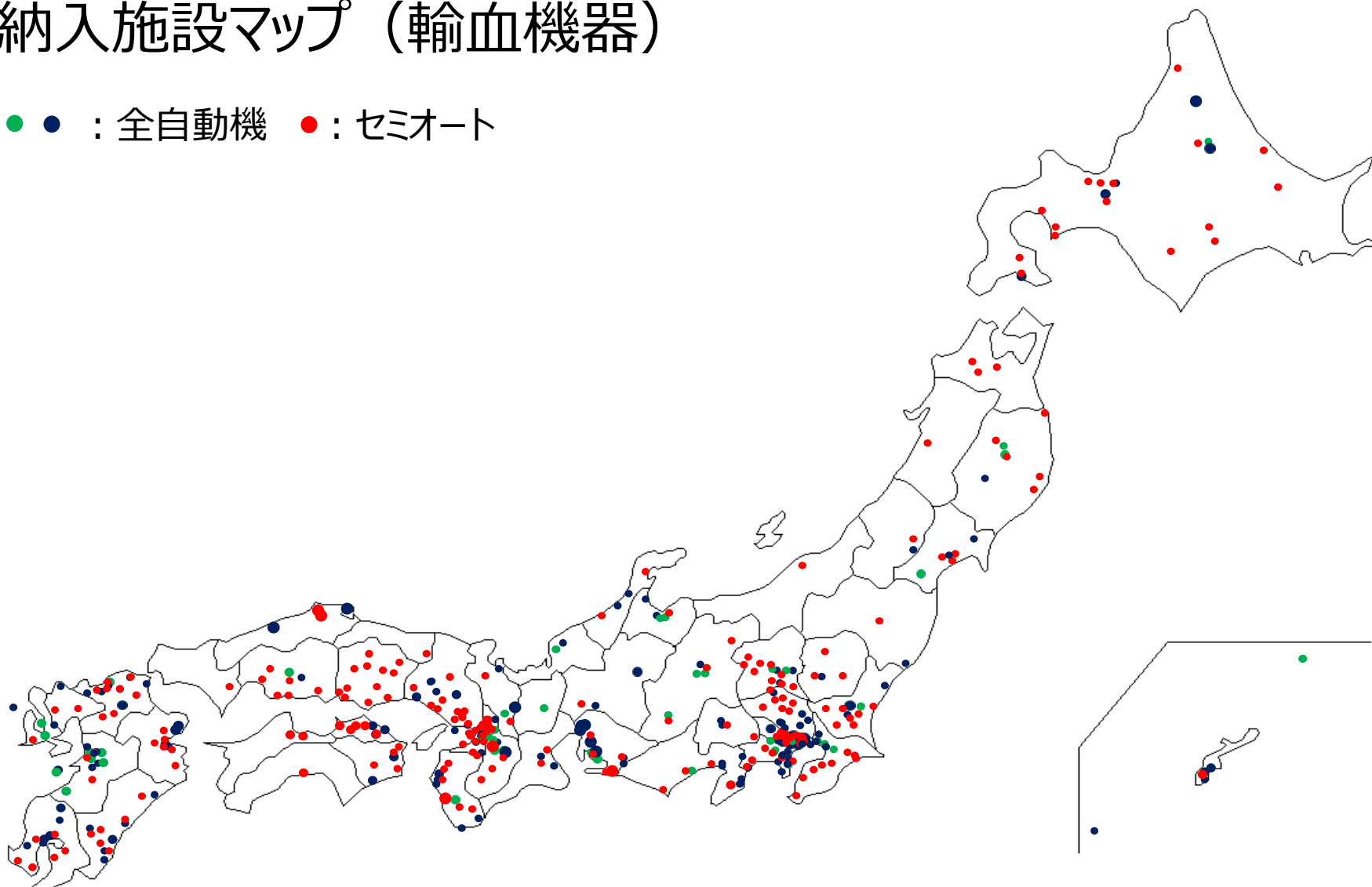
- * 機器の優位性を生かした新規及び更新プロモーション
- * 機器見学の推進、Webセミナーの継続開催
- * 精度管理調査の継続実施
- * メンテナンスプランの充実、特に修理対応の迅速化
- * メンテナンスサービスの外注化促進

展示等

- ・ 第73回日本輸血・細胞治療学会学術総会
(5/30 - 6/1, 北海道)
- ・ カイノス ユーザー会 (5/30, 北海道)
- ・ JACLaS EXPO 2025 (10/3 - 5, 横浜)

納入施設マップ（輸血機器）

● ● : 全自動機 ● : セミオート



新製品開発

新製品開発

1) 2024年度 上市

(1) Grifols sCD38

ダラツムマブによる間接抗グロブリン試験への干渉を回避
顧客メリット (簡易操作・時間短縮) を訴求

8月 8日 発売

(2) 2本組 リキッドキャリブレータ

安定性向上、小包装による利便性向上

9月24日 発売

(3) アクアオート カイノス GLU-II 試薬

安定性向上、測定範囲の増加

10月23日 発売



新製品開発

2) 2025年度 継続・新規取り組み

(1) HISCL試薬の項目拡充

シスメックス株式会社との協業、複数項目を継続開発中

開発・製造	項目数
がんマーカー	7
婦人科ホルモン	7
合 計	14

開発中
がんマーカー
ホルモン
凝固・線溶

(2) 他社との協業拡大

- ・カインス試薬(生化学・免疫分野) 他社取扱い
- ・製造受託品目の追加、受託工程の範囲拡大
- ・抗AAV抗体測定キットの開発と供給 (遺伝子治療／医師主導治験用)

効率化・コスト削減

効率化・コスト削減

用手法充填作業の自動化（笠間工場）

自動充填巻き締め機 の導入目的・仕様・効果

- ・機械化促進、小量容器・少数品番自動化、増産体制の構築
- ・品質安定化、現行機のバックアップ、生産効率アップ、原価低減
- ・投資額 : 1億 4千万円
- ・設置見込 : 2026年 3月
- ・進 捗 : 計画通り進行中
- *FY2024 要求仕様書、製作仕様書
- *FY2025 設計、組立、受け入れ前試験、設置、バリデーション

法令等への対応

法令等への対応

1) 資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応

PBR改善に向けた取り組みの継続

- (1) ROE向上 収益性改善（純利益及び売上高純利益率の向上）
- (2) 株主還元強化：中期計画における株主還元の検討
- (3) IR活動の強化：新製品開発等の事業活動の開示
- (4) 設備投資・資金計画：製造設備への投資，有利子負債の返済

資本収益性 及び 資本コストの現状分析・評価

当社業績・指標	FY2020	FY2021	FY2022	FY2023	FY2024
自己資本当期純利益率 (ROE)	9.2%	10.4%	10.5%	10.7%	9.8%
株主資本コスト (CAPM)	—	8.08%	8.08%	6.51%	5.33%
投下資本利益率 (ROIC)	7.90%	9.50%	10.20%	10.04%	10.79%
加重平均資本コスト (WACC)	6.57%	6.67%	6.95%	5.64%	4.84%
資本収益性	ROIC>WACC	ROE>CAPM ROIC>WACC	ROE>CAPM ROIC>WACC	ROE>CAPM ROIC>WACC	ROE>CAPM ROIC>WACC
期末株価	1,021 円	1,005 円	1,041 円	1,197 円	1,253 円
一株当たり純資産 (BPS)	1,138 円	1,245 円	1,358 円	1,486 円	1,607 円
株価純資産倍率 (PBR)	0.90	0.81	0.77	0.81	0.78
配当性向	14.9%	19.8%	18.4%	21.0%	(23.0%)
株主資本配当率 (DOE)	1.42%	2.15%	1.98%	2.31%	(2.33%)

法令等への対応

1) 資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応

PBR改善に向けた取り組みの継続

- (1) ROE向上 収益性改善 (純利益及び売上高純利益率の向上)
FY2025: FY24実績 (純利益 641M¥・売上高純利益率12%) 以上
- (2) 株主還元強化 : 中期計画における株主還元の検討
期末配当 3円増配(記念配当), 配当性向23%, 株主総利回り 151%
FY2025以降も 業績・利益成長に応じた安定的かつ継続的な配当水準の向上
- (3) IR活動の強化 : 新製品開発等の事業活動の開示
決算説明会(旧・報告会)の段階的見直し, 株主や機関投資家対応の継続
- (4) 設備投資・資金計画 : 製造設備への投資, 有利子負債の返済
FY2024: 自動分注巻締め機(140M¥), 短期借入240M¥返済
FY2025以降: 基幹システムや製造設備等の更新準備, 預金・借入の見直し

法令等への対応

2) サステナビリティ・人的資本投資への取り組み

重要課題に紐付く 当社事業と連動した重要指標(KPI)設定

(1) 社会的に有用な製品・サービスの開発

- ・クレアチニン (CRE) やマルチ9項目のシェアアップ
- ・プロカルシトニンのシェア拡大(シェア5%・売上2億円)

(2) 働きやすい職場づくり

- ・一般事業主行動計画の更新：男性育休取得率 50% 他

(3) 環境保全活動の推進

- ・CO2排出量把握からSBTi認定取得準備GHG排出削減目標
- ・資料等見直し(含電子化)による廃棄物削減・90%以上再利用

(4) ガバナンス 他 (企業倫理の徹底と社内体制整備)

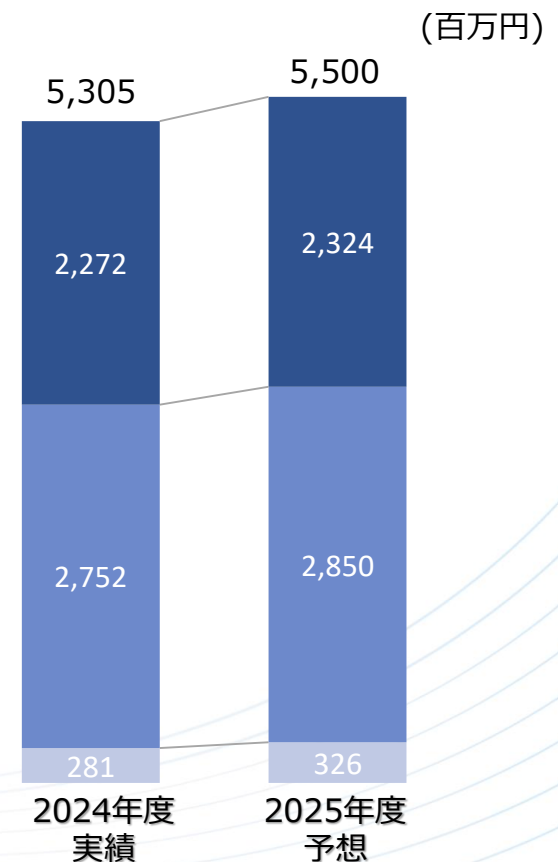
- ・人権方針の啓発, コンプライアンス教育研修100%履修

2025年度 予想

売上高(全体)

- ・ CREをはじめマルチ9項目中心に生化学項目の更なるシェアアップ
- ・ プロカルシトニンの売上を倍増
- ・ 輸血機器の更なるシェア拡大及び更新の推進

	2024年度 実績	2025年度 予想	増減額
生化学	2,272	2,324	52
免 疫	2,752	2,850	98
その他	281	326	45
合 計	5,305	5,500	195

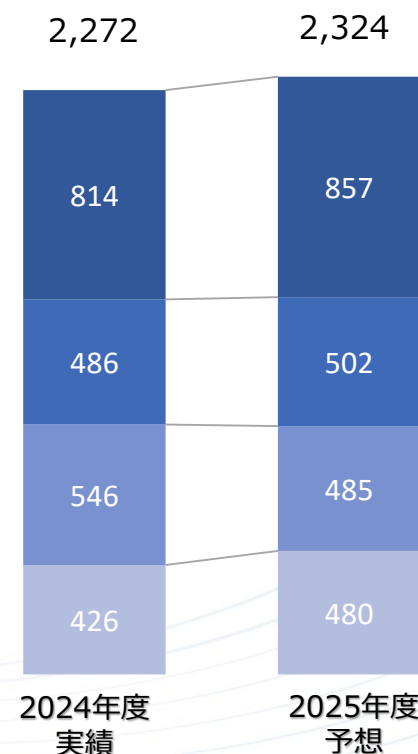


売上高(生化学)

- ・ CREトップシェア獲得及び機器メーカーとの協業によるマルチ9項目の売上拡大
- ・ マルチ9項目の病院シェアの拡大及び他メーカーへの導出拡大

(百万円)

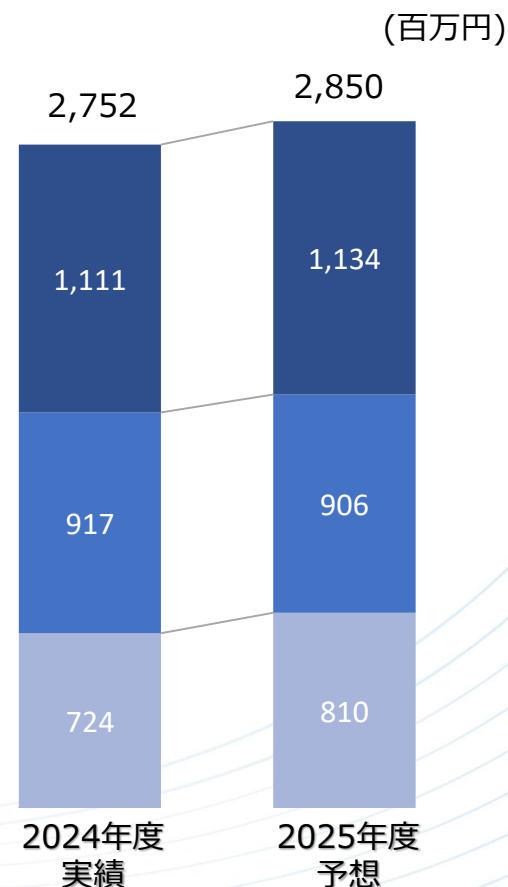
	2024年度 実績	2025年度 予想	増減額
腎機能	814	857	43
肝機能	486	502	16
糖尿病	546	485	▲61
その他	426	480	54
合 計	2,272	2,324	52



売上高(免疫)

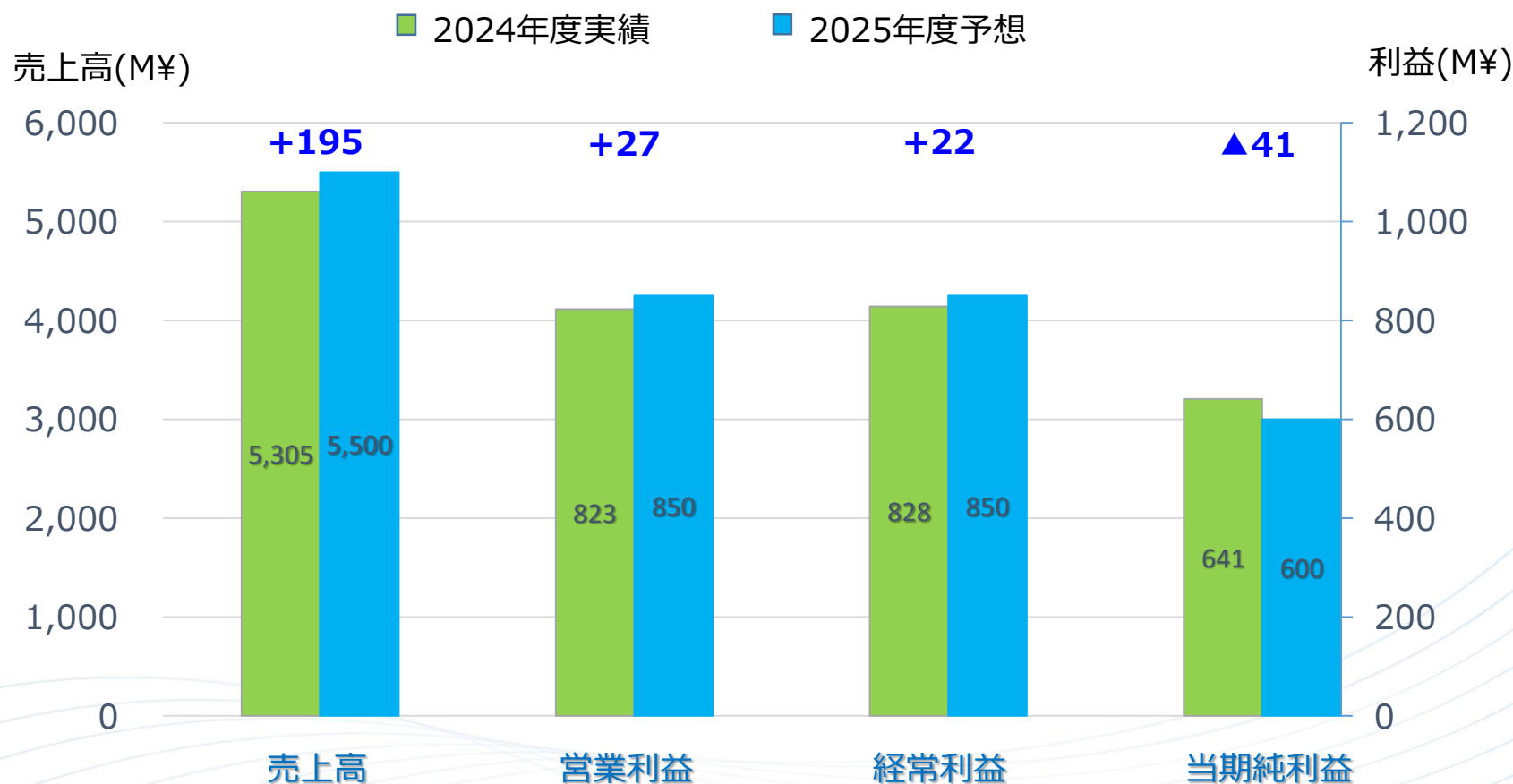
- ・プロカルシトニンのシェアを5%へ拡大
- ・輸血自動機のシェア20%獲得

	2024年度 実績	2025年度 予想	増減額
輸血 (除機器)	1,111	1,134	23
腫瘍 マーカー	917	906	▲11
その他	724	810	86
合 計	2,752	2,850	98



2025年度 予想

対前期：増収(+3.7%)・増益(営業利益+3.2%)



2025年度 通期業績予想

(単位：百万円)

		2024年度 通期実績	2025年度 通期予想	増減額	増減率 (%)
売上高	製品	4,551 (85.8%)	4,780 (86.9%)	229	5.0
	商品	754 (14.2%)	720 (13.1%)	▲34	▲4.5
	計	5,305 (100%)	5,500 (100%)	195	3.7
営業利益		823	850	27	3.2
経常利益		828	850	22	2.6
当期純利益		641	600	▲41	▲6.4

中期的展望

中期的展望

以下を通して 今後の持続的な成長を実現する

1. 新製品開発

- 1) 自社技術と他社技術の融合
 - ・国内企業とのアライアンス強化
 - ・海外技術の積極的な活用（日本のユーザーニーズにカスタマイズ）
- 2) 新規展開分野
 - ・遺伝子項目, 感染症項目
 - ・生化学汎用機器用ラテックス試薬
（プロカルシトニン：3年後シェア 10%, ラテックス試薬売上計 10億円／年）
 - ・既存試薬の継続的な改良： 優位性のある試薬への改良で新規開拓

2. 海外展開

- 1) 当社独自技術・オンリーワン製品の展開（カルニチン等）のほか, 他社との協業も活用

3. 人材

- 1) 継続して人材確保に注力： 成長に合わせた適材適所の人材計画
- 2) 社員全体の能力とスキルの底上げ： 育成投資, IT・DX・AIを活用した効率化

Creative Power & Innovation
Creative Power & Innovation

KAINOS
KAINOS LABORATORIES, INC.

本資料は、金融商品取引上のディスクロージャー資料ではなく、情報の正確性を保証するものではありません。本資料に記載されている業績予想等については、現時点で入手可能な情報を基にした見通しを前提としており、今後様々な要因の影響から、本資料の予想とは異なる場合がありますことをご承知おきください。

本資料は投資勧誘や宣伝広告を目的としたものではなく、当社は、本資料の利用により生じたいかなる損害に対しても一切責任を負いかねます。